

優秀賞

魂のぬけた音楽

横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校 1年 小俣 果音

私は音楽が大好きだ。特にジャズピアノが好きで、フリーなテンポやリズムノリのかっこよさに惹かれて、食事を忘れて弾き続けることもある。

小学校六年生の終わりにあるコンクールで全国大会に出場した。十一年ピアノをしてきて演奏会やコンクールで失敗や目立ったミスなどをしたことがない。受賞区分も小学生枠だったので、最高学年の私は有利だと思っていた。小学校生活最後にドーンと花を咲かせるイメージもついていた。

本番は、とにかく失敗しないことばかり考えていた。ミスしなければ受賞できる！安全に指の運びを進め、慎重に演奏した。結果、失敗はなかったが、受賞はできなかった。なぜか：私は失敗を恐れ、自分らしさを失ったからだ。先生やお母さんからは「良かったよ」と声をかけてもらえた。「でも緊張してた？」と、固くて、いつもの演奏ではなかったことを指摘された。

そのとき、私は気づいた。今日の私は、ただ楽譜通り、間違えない、失敗のないだけの演奏をしていたのだと。そして、面白くなく、曲に魅力を失った。これこそ、演奏する者の大失敗なのだと思った。弾き間違えても、観客をグッと引き込む演奏ができた方が良かった。

それから、私は上手に弾くことをやめた。演奏に魂を入れ、曲想に自分がどう表現したいかを考えるようにした。そつなく弾けることではなく、そこに生きた魂が入るから人を感動させるような心こもった音楽が生まれるのだと思う。音楽は奥深いと初めて思い知った、失敗からの学びだった。